



## 女子プロ野球界初のアンダースロー投手



女子プロ野球「埼玉アストライア」投手  
山口千沙季さん（東狭山ヶ丘出身）

女子プロ野球チーム「埼玉アストライア」に今年入団した20歳。女子プロ野球界初で唯一のアンダースロー投手。宮前小・狭山ヶ丘中出身で、中学時代はソフトボール部に所属。買い物と、海や山を眺めるのがリフレッシュ法。

memo

ヴィクトリアシリーズ  
秋季リーグ（所沢開催）

10月6日(日)  
▶愛知vs京都  
…午前11時～  
▶埼玉vs京都  
…午後1時30分～  
場所沢航空記念公園野球場



体の外側を通してしなやかに腕がしなる。次の瞬間、スパーンと小気味よい音を立ててボールがキャッチャーミットに吸い込まれた。

令和元年夏。静かな熱気が満ちる室内練習場でピッチング練習に汗を流すのは、山口千沙季さん。女子プロ野球界初のアンダースローの投手だ。

女子プロ野球の国内4チームのひとつ、「埼玉アストライア」は、若い選手が多く勢いのあるチーム。今年入団した山口さんも、チームの勢いを支える1人だ。「使っているのは男子と同じ用具や球場。それでもホームランが出ますし、ボールも速い。レベルは年々上がっています。何より、選手とファンとの距離が近いのが魅力です」と、女子プロ野球の魅力を教えてくれた。

3歳上の兄の影響で、小さい頃から野球好き。すでに、幼稚園の卒業アルバムには「将来の夢は野球選手」と書かれていたという。

小学2年生から所沢リトルリーグに所属。5年生の時、女子プロ野球リーグ誕生とともに、夢が具体的になった。

女子野球部がある新潟の高校に進学、3年生の時、プロテストに合格。卒業後、京都にある育成チームに所属し、通常2年の育成期間を1年で終えて昇格した。「育成チームでの1年間は徹底的に走り

込み、体を鍛えました。おかげで10kg絞れました」と笑って話すが、想像を上回る厳しさだっただろう。

持ち味であるアンダースローにも、先駆者ならではの苦労があった。手本となる女子選手はおらず、男子選手の投球を参考に試行錯誤の日々。こうして完成したアンダースローは、山口さんの最大の武器でもある。「さらに磨いて『アンダースローといえば山口』と目標とされる選手になりたいです」

昇格し埼玉アストライアに移籍した山口さん。地元に戻るんだ、とうれしかったそう。秋の女子プロ野球は、埼玉開催。10月6日には所沢航空記念公園の野球場で試合が予定されている。「自分たちも、埼玉での開催をとっても楽しみに、日々練習を頑張っています。想像を裏切る迫力、パワーをお見せします。ぜひ、球場で生で楽しんでほしいです！」

午前は練習、午後はチーム運営の仕事と多忙な日々を送っているが、幼い頃からの夢をかなえた山口さんの表情は明るい。「女子プロ野球は今年で10年目。層が厚く、レベルも高くなっています。女子プロ野球選手を目指す人に憧れられる存在になれるよう、野球選手としても、人間としても、もっともっと磨きたいです」。さらに上を目指す山口さんのピッチングを、この秋はぜひ航空公園野球場のマウンドで目に焼き付けたい。  
(取材：加賀谷)



## 今月のプレゼントクイズ!

「秋。体を動かさなきゃ!」そう思ったときが、始めどき!  
フィットネス教室1カ月(4回)無料券  
(5,000円相当×12人)



スタッフは、イベントなどの出張パフォーマンスも行っていきます!



キラキラでハッピーなフィットネス『ハピネス』  
北秋津197-16  
ライフコート所沢1階  
☎090-8057-4196  
(無休)



平均寿命県内1位の所沢で、健康長寿を目指しませんか?インストラクターは、現役ダンサー。年齢に応じたフィットネスを丁寧に指導してくれます。プレゼントは、柔軟教室や子ども向け体育教室も選べます♪アットホームな雰囲気スタジオでは、ダンス教室やバク転(アクロバット)教室なども開催中!

### ◆今月のクイズ

8・9・10・12面のクイズを解き、空欄に入る文字を順番につなげると?

### ◆応募方法(10月10日(日)締め切り)

①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥電話番号⑦10月号の感想を記入し、〒359-8501 広報課に郵送・市HP(Qプレゼント)で応募  
◎当選者の発表は、引換券の発送をもって代えさせていただきます。



### ◆プレゼント提供事業者も募集中!

詳細は、市HP(Qプレゼント募集)をご覧ください。

## 読者感想文

- 「学校 with 地域」の特集はとても興味深く、学校・家庭・地域の連携の大切さを強く感じました(花園・40代)
  - 学校と地域の人たちが関わることは、双方にとって良いことだと思います。これからも継続して行ってほしいです(北秋津・60代)
  - いろいろな学校の取り組みを取り上げてほしい(山口・30代)
- 編集から●「地域と育てる学校」。9月号特集に大きな反響がありました。地域との楽しい交流は、きっと子どもたちの心に残るはず。紹介しきれなかった取り組みも、市HP(Q特色ある学校)でご覧になれます。本紙折り込み「翔びたつひろば」の連載「ところんの学校

ルポ」もご覧ください

- 所沢の平均寿命が県内1位とは、びっくり。健康に年を重ねられるよう、私も日頃から注意しようと思います(林・60代)
  - ひばりちゃん10周年おめでとう!いつまでもところんとともに愛されるキャラクターでいてください。応援してます!(上新井・50代)
- 編集から●ありがとうございます!来月号では、記念イベントもお知らせ予定です♪お楽しみに!

## 編集後記

台風15号で被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。自然の脅威とともに、いかに電気が私たちの生活に欠かせないものなのかも再認識した秋。明日は我が身。今一度、備えの確認を!(佐々木)

東京2020大会を特集。実は表紙のガッツポーズは市内在住のゴールボール選手・田口侑治選手にお願いしました。「所沢からゴールボールを盛り上げましょう!」と、力強く語ってくれました。(宮崎)

甲子園で決勝の熱戦が繰り広げられたまさにその日、埼玉県内の練習場には、秋季リーグに向けて練習に打ち込む埼玉アストライアの選手たちの姿がありました。「勝負は常に真剣。でも、観客の皆さんに楽しんでもらえるよう、笑顔も忘れません」と、今月のところろこ・山口投手。ひたむきに白球を追う女子プロ野球の世界を垣間見て、いっぺんにファンに。10月の所沢での試合も見逃せません!(加賀谷)